

N

PAT-NO: JP411042108A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11042108 A  
TITLE: LOCKING UMBRELLA  
PUBN-DATE: February 16, 1999

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
TSUCHIDA, SHOGO

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
TSUCHIDA SHOGO N/A

APPL-NO: JP09194728  
APPL-DATE: June 15, 1997

INT-CL (IPC): A45B009/02, A45B003/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a locking umbrella which overcomes drawbacks with conventional umbrellas by providing the function of a key to the natural form of an umbrella, so that the umbrella can be placed safely in any place only if there is a rod-shaped object fixed at both ends.

SOLUTION: A cord 1 which is normally attached to the root of the handle of an umbrella is made stronger by passing a metal 2 or the like through it, and a key 3 is attached thereto so that the loop of time cord 1 through which the metal 2 or the like is passed opens and closes freely.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-42108

(43)公開日 平成11年(1999) 2月16日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 5 B 9/02  
3/00

識別記号

F I

A 4 5 B 9/02  
3/00

C  
A

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平9-194728

(22)出願日 平成9年(1997) 6月15日

(31)優先権主張番号 特願平9-170911

(32)優先日 平9(1997) 5月24日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(71)出願人 596115894

土田 庄吾

兵庫県姫路市御国野町国分寺314

(72)発明者 土田 庄吾

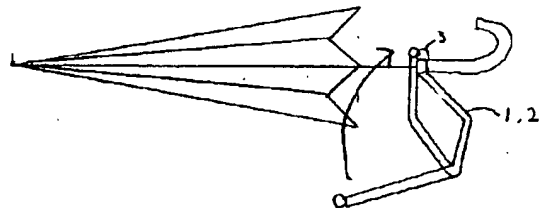
兵庫県姫路市御国野町国分寺314

(54)【発明の名称】 ロッキング・アンブレラ

(57)【要約】

【課題】雨が降っている間は非常に重宝し、だからもありがたがられる傘であるが、やんだあとは、濡れていて滴がたれる等々、特に室内で持ち歩くのは建物の清潔面からも、そしてなにより傘の持ち主にとって厳しく、これは、傘のもつ二面性、すなわち、雨が降ったら有用だが、降っていなければ邪魔ものに過ぎないという事を現わしている。本発明は、傘の自然な形の中にカギの機能を併せ持たせることによって、この欠点を克服し、どこでも両端が固定された棒状のものさえあれば、そこに、安全に、傘を置いておけるロッキング・アンブレラである。

【解決手段】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも(1)に、金属等(2)を通して頑丈にし、そこにカギ(3)を備えることによって、金属等(2)を通したひも(1)の輪を開閉自在とする。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも（1）に、金属等（2）を通して頑丈にし、そこにカギ（3）を備えることによって、開閉自在としたロッキング・アンブレラである。

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外になった場合のロッキング・アンブレラである。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、傘の盗難防止と置き場に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来より傘の盗難防止については、カギつきの傘縦がもっぱら一般的であった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】これには傘が必要でないとき、そのつど、近くにカギつきの傘縦がなければならないが、無い場合は、身じかに持っていなければならないが、これは邪魔物となり、とくに雨に濡れたあとなどは最悪であった。本発明は、この欠点を解決するためになされたものである。

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

【請求項1】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも（1）に、金属等（2）を通して頑丈にし、そこにカギ（3）を備えることによって、金属等（2）を通したひも（1）の輪を開閉自在とする。

## 【0005】

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外になった場合で、金属等（2）を通したひも（1）と傘の柄の一部でできる輪を開閉自在とする。本発明は、以上の構成よりなるロッキング・アンブレラである。

## 【0006】

## 【発明の実施の形態】

【請求項1】以下、本発明の実施の形態を説明する。通常、傘にひも（1）を付ける場合には、柄の付け根の部分についているケースが多いが、これは雨風等が強い際に傘の柄とこのひも（1）をしっかりと握ることによって、強い風に対処するためのものであったが、このひも（1）に金属等（2）を通して頑丈にするか、あるいは

2

金属等（2）のみでこのひも（1）をつくり、ひも（1）の取り付け部のところにカギ（3）を備えることによって、金属等（2）を通したひも（1）の輪を開閉自在とする。

## 【0007】

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外になった場合を想定し、この場合も同様に金属等（2）を通したひも（1）と傘の柄の一部でできる輪を開閉自在とする。ちなみに、これまで述べてきた金属等（2）は、傘の柄のところのひも（1）と一体となるため、当然折れ曲がりやすくするため、輪のつながったような形や、バネ、スプリングのような形も考えられる。本発明は、以上の構成よりなるロッキング・アンブレラである。

【0008】外出先で傘をしまう際、傘縦が無い場合でも両端が固定された棒状のもの、例えば、自転車（a）、鉄棒（b）、階段の手すり（c）などがあれば、そこに傘を掛け、柄の部分の金属等（2）を通したひも（1）をのばしてそれらを取り巻き、ひも（1）の輪にからめた状態でカギ（3）をすることによって、安全に、傘を置いておける。

## 【0009】

【発明の効果】本発明を使用することによって、どこでも両端が固定された棒状のもののさえあればそこに、安全に、傘を置いておける。現代の科学をもってしても、降雨の正確な時間はわからず、外出時、人々は傘を持たねばならない。雨の降っている間は良いが、降っていない間、特に雨の降りやんだあと、傘縦が無い時などは、傘は、濡れていて滴がたれる等々の欠点を持っていた。本発明は、この欠点を大部分取り除きうるものである。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1にかかる本発明の平面図。

【図2】請求項1にかかるカギの部分。

【図3】請求項2にかかる本発明の平面図。

【図4】請求項2にかかるカギの部分。

【図5】本発明の使用状態を示す図。

（a）自転車

（b）鉄棒

（c）階段の手すり

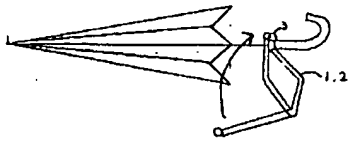
## 【符号の説明】

1 ひも

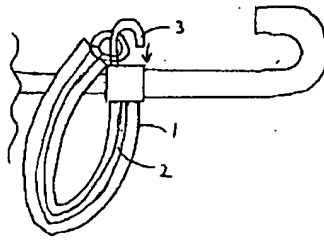
2 金属等

3 カギ

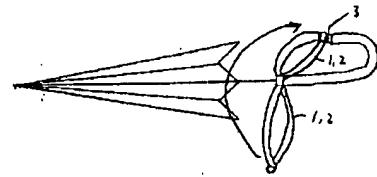
【図1】



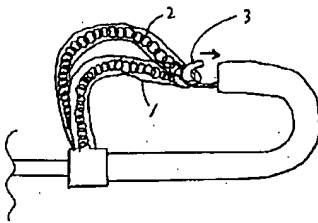
【図2】



【図3】

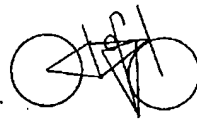


【図4】

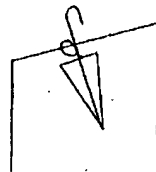


【図5】

(a)



(b)



(c)

